

健やかに生き、安らかな最期を

# Living Will

2018年  
10月発行

No. 171

リビング・ウイル

医師・作家

大鐘稔彦さん

医師も小説も

アウトサイダーと

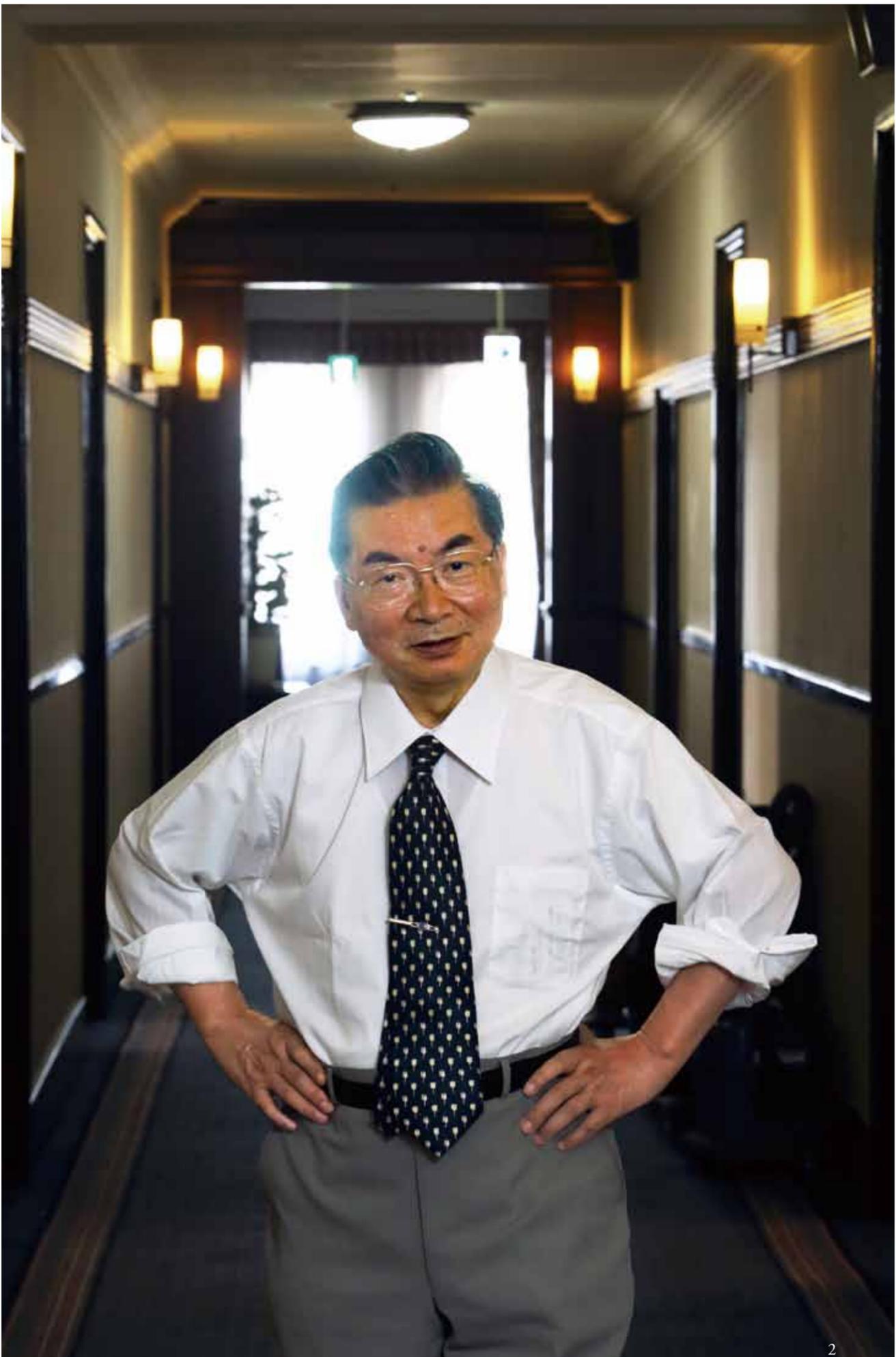
決めた！

○ 拡大・支部活動のお知らせと報告

○ 鈴木悦朗・受容協力医の奮闘

○ 連載「四季の歌」紅葉





「インタビュー」 医師・作家

# 大鐘稔彦さん

## 医師の理念を貫きつつ

## 小説も書き続けたい

インタビュー・構成／会報編集・郡司武 写真／白谷達也

——大鐘さんは『コミック』『メス  
よ輝け!!』や『孤高のメス』など  
でよく知られる作家で医師ですが、  
京都大学の医学部時代から文学に  
関心がおありだったんですか。

**大鐘** 大学の医学部を辞めて作家  
になろうかな、と思ったこともあ  
りました。専門課程に進んだころ  
で、退屈な講義に嫌気がさしまし  
てね。たまたまその時に、朝日新  
聞が募集していた「1千万円懸賞  
小説」を知りました。

——三浦綾子の『氷点』が当選し

て1千万円をとった時ですね。

**大鐘** そうそう、その時。私も小  
説を書いて「これで世に出よう」  
と。ハハハ。

——文学部に行こうとは思わな  
かったんですか。

**大鐘** ええ、そこまでは。1千万  
円とって作家として世にデビュー  
して映画監督にもなりたい、と。  
まあ、そんなことを思っていました  
ね。それで1年休学して、比叡山  
のふもとの下宿に閉じこもって一  
日中原稿用紙に向かい、当選をめ

ざして1千枚書きあげました。い  
ま思うと、若気の至りです。

——その小説はどうになりました？

**大鐘** うーん、覚えていません。  
原稿は返却してくれましたけど、  
夢破れて医学部に復学しましたが、  
追いつくのが大変で、必死で頑張  
りました。

——そうでしたか。回り道です  
けど、それは医師としての幅を広げ  
ることもなったんでしょね。

**大鐘** 医師になって弱者を助けた  
いというのは、いまは亡き母親の  
影響ですかね。母はクリスチャン  
で、シユバイツアーがノーベル平  
和賞をとった時に、ものすごく喜  
びましてね、「あんたもシユバイ  
ツアーのようになりなさい」と小  
学生の私に言ったのを覚えていま  
す。

——そのお母さんの最期は、どん  
なでしたか。

**大鐘** 母は脳腫瘍で、72歳で亡く  
なりました。脳腫瘍の中でも最悪  
のものでした。叔母から「お母さ  
んの状態がおかしい」と電話があ  
って名古屋に駆けつけたら、おし

つこを漏らすスリッパも履けな  
いしと。私は脳梗塞と思ったんで  
すが、名古屋大病院でCTを撮っ  
てもらったら脳腫瘍だと。当時、  
私は埼玉県の病院にいましたから、  
名古屋から連れてきて近くの上尾  
がんセンターに頼んだんですが、  
手術や放射線治療の甲斐もなく、  
3カ月で亡くなりました。

「狐と狸の化かし合い  
みたいなことでもいいのか」

——最期のコミュニケーションは  
とれましたか？

**大鐘** いや、とれませんでした。  
訳の分からないことを言っていま  
したね。母っ子でしたから悲しかっ  
たですね。

——そうですか。お父さんはどん  
なでしたか。

**大鐘** 父は元小学校の教師で、母  
が亡くなって2年間は名古屋で一  
人で頑張っていたんですが、だん  
だん痩せてきましたね。一人暮ら  
しだから、ちゃんとしたものを食  
べていなかったんでしょう。それ  
で当時上尾にいた私の所へ引き取

りましたが、数年後、認知症になり徘徊するようになって、心筋梗塞であっけなく逝ってしまいました。86歳でした。ずっと面倒をみていた妻もいろいろ苦労していました。

——ご自身の最期はどうありたいと思われませんか。

**大鐘** 求めるのは尊厳死ですね。橋田寿賀子さんのように安楽死を求めてスイスカオランダには行かないと思います。私は平成元年のバブルのころに病院を建て、その5階をホスピスにしました。そこに入ってくる患者さんにはモルヒネを使いましたね。がんは最期は「痛みで悶え苦しむ」と一般的に言われますが、モルヒネで十分制御できると思っています。

——大鐘さんは「がんの告知」でも先駆者と言われますよね。

**大鐘** 京大を出てから大学の関連病院に3つほど勤めましたが、暗黙の了解で「がんは告知してはいけない」とみたいな雰囲気でした。当時。なぜいけないのか、を先輩の医者の方にも言ってくれません。

そうなる患者さんのところに行くのが苦痛になり、だんだん敷居が高くなりますよね。胃がんは「胃潰瘍」と伝えることになっていましたから、患者さんは「いつ食べられるようになるの？」と繰り返すし聞く。医者はうーんと唸り、言葉が濁すだけ。そのうちに患者さんはだんだん弱って行ってしまふ。そんな狐と狸の化かし合いみたいなことで果たしていいのか、と痛切に思いました。

### 「自分のコンセプトで医療をするしかない」

——それは徒労でしたか。

**大鐘** 大変な徒労ですよ。

——患者さんも、うすうす「がんではないか」とわかってくるんじゃないですかね。

**大鐘** そうです。だから医者も視線を避けがちになるんです。

——医療者が視線をそらせばそろすほど、「ああ、私はがんか」と患者さんも思うんじゃないですか。

**大鐘** そうですね。長引けば長引くほど、患者さんは「胃潰瘍とい

うのはうそで、おそろくがんだろう」と察してきますね。

——こういうことはね、私は医療者と患者の本当の付き合いではないな、と思ったんです。

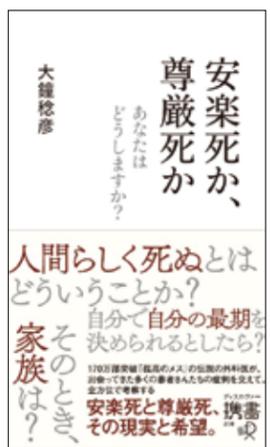
しかし、私が下っ端の医者である限りは「これは間違っている」と思っても、なかなか言えません。それで、これはもう自分のコンセプトで医療をするしかないと思っただんです。ちょうどその頃、関東の民間病院から院長にこの話がありまして、母校と縁を切り、転じることになりました。

——転じてからすぐに、がんを告知することにしましたか。

**大鐘** いや、これがなかなか大変でした。告知するには家族の了解を得なければならぬでしょ。多くの家族は「ほんとうのことは言わないでくれ」と言いますから、家族を説得するのに一苦労でしたね。そうなると実際、家族も患者さんと「狐と狸の化かし合い」みたいになるわけですよ。

**大鐘** そういうことですね。ですから必ずモニターで記録し、警察にそれを届けないとダメみたいですね。オランダでは医師がストッパーを外しますが、厳格な安楽死判定委員会のようなものがあり、そこで対処されているようですね。

私も人間は創造的なことができなくなったら早く死んでしまってもかまわないとも思ったりします。しかし、私の患者さんで、寝たきりの8代のおばあちゃんを毎日見舞いに行く88歳の連れ合いのおじいちゃんがいるんです。おばあちゃんには寝たきりで何も言えないんですけど、「今日は指が少し動いた」とか「俺の顔を自分に向かせよう」とかガアアと声を出したりす



この9月に刊行された新著『安楽死か、尊厳死か』(ディスカヴァー携書)の表紙。「最期のあり方」に鋭く迫った内容だ

——今思うと、なんとも不毛なエネルギーですよ。

**大鐘** ほんとにそうですね。それでも何とか、1割くらいの患者さんには伝えることができました。

——告知すると、医師と患者さんは、どういう関係になるんですか。

**大鐘** 確実に敷居は下がりましたね。私があなたに最期まで伴走しますよ、というように感じてもらえますから強い信頼関係も生まれてきます。本来の医師と患者の関係と比べていいでしょうね。

——先生は、尊厳死と安楽死について本も書かれています。その違いなどを?

**大鐘** 「消極的安楽死が尊厳死」と言っているんですよ。つまり末期に至ったら一切の余計な治療を断るといのが「リビング・ウ

る」とか、ちょっととした反応に生きがいを感じているんですね。誰かのために支えになっているんなら、それは生きる意味があると思いますね。

### 「アウトサイダーでいこうと決めたんです」

——大鐘さんの創作の主人公医師「当麻鉄彦」は、どんな考えなんですか。

**大鐘** 彼は少しでも望みがあるなら助けるといふ考え。それは末期の人に対してではないですよ。むごむご死んで行くのを見越させないという考えは、私も同じです。

——無輸血手術を掲げるエホバの証人への対応もそうでしたか?

**大鐘** そうですね。そういう考えで、エホバの証人を引き受けました。大病院がやらない患者の手術をするというのは、医師冥利に尽きましたから。

——『孤高のメス』や『メスよ輝け!!』などを読んでいて、先生は大病院に対して、かなりアンチ的なところがありますね。



## 『孤高のメス』の主人公・当麻鉄彦は私の分身です

イル」ですよ。積極的安楽死は、自ら早く死ぬことを求めて医者に致死量の薬を盛ってもらおうということ。これをしているのがスイスとかオランダですね。スイスではただし、点滴で落とすんですけれどストッパーを開けるのは患者さんのようですね。医師は点滴に薬

を盛るけれど、最期の時間を決めるのは患者さん本人ということ。最期のその時間に家族と時間を共有し、別れを告げて、ストッパーを開ける。

——医師がストッパーを開ければ殺人になってしまうのを避けるという方策ですね。

### おおがね・としひこ

1943年、名古屋市生まれ。医師で作家。現在、兵庫県南あわじ市立阿那賀診療所長。京都大学医学部を卒業後、関連病院で外科、産婦人科などを専攻した後、埼玉県の民間病院の院長を歴任。リアルタイムでの手術の公開やエホバの証人の無輸血手術も手がける。累計170万部のベストセラー『孤高のメス』『緋色のメス』や医療漫画『メスよ輝け!!』の原作でも知られる。現在はメスを置き、地域医療に携わる。

## 私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウイル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

### 1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

- 自宅    病院    介護施設    分からない  
その他（ ）

### 2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）

- できる限り自立した生活をする    大切な人との時間を十分に持つこと  
弱った姿を他人に見せたくない    食事や排泄が自力でできること  
静かな環境で過ごすこと    回復の可能性があればあらゆる措置を受けたい  
その他（ ）

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

### 3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- 経鼻チューブ栄養    中心静脈栄養    胃ろう    点滴による水分補給  
口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう

### 4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- 心肺蘇生    人工呼吸器    気管切開    人工透析    酸素吸入  
輸血    昇圧剤や強心剤    抗生物質    抗がん剤    点滴

### 5. その他の希望

#### 【用語の説明】

●**心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。

●**人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。

●**胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

キリトリ

## 「大学病院が拒否する手術をする」というのは外科医冥利に尽きます

**大鐘** 信頼していた母校の教授に裏切られましたから、もう母校の庇護は断ってアウトサイダーでいこうと決めたんです、そのぶん苦労しましたけどね。でも、医師として自分のコンセプトを貫けたことは幸せでした。

——小説の主人公にご自身を投影させて、鼓舞してきたと……。

**大鐘** まあ、そういうことになりませぬ。

——上尾を離れて今、淡路島で診療活動をされています。いつ移られましたか？

**大鐘** 1999年、55歳の時です。先ほど言いましたように、上尾にホスピスを設けた病院を建てたんですが、最後は自分が育てた病院から追われるような状況になって2、3の民間病院に誘われたんですが、経営のことしか言わないような院長だったり、すぐに倒産し

たりで……。自分が求める理想の環境はもう得られないな、と思いました。そんなこんな末に、ある伝手で、淡路島にきたんです。——なるほど。そんな経緯があったんですか。

**大鐘** それで、もうメスを捨てて、僻地に行こうと。

——阿那賀診療所での日常はどんな具合ですか。手術はもうなさっておられませんよ。

**大鐘** 手術は外来でできる簡単なものに限られていますね。半農半漁の高齢化地域ですから、高血圧や糖尿病、高脂血症などの慢性疾患が主ですが、がんも、これまで200件近く発見しています。自分の手で手術できないのが残念ですけど。

——先生は早くから尊厳死協会の受容協力医師に登録されています。最後に、尊厳死協会や会員の

方々に何かひとつ……。  
**大鐘** 尊厳死協会の理念と、進め方はいいと思いますね。「不治かつ末期」の患者さんに無駄な医療はやらないということに、協会は大きく貢献してきたんじゃないでしょうか。それと法制化は必要ではないでしょうか。いまの状態だと医師は訴えられかねませんから。——今日は、上京のおりにお話をうかがいました。多岐にわたるお話をありがとうございました。



### インタビューを終えて

どこかに文学青年の雰囲気も残す大鐘医師の人生は、波乱万丈に近い印象でした。バブルのあと、自分が建てた病院から追われるように去る。「アウトサイダーでいこうと決めた」との言葉に続いて「苦労しましたけどね」とつぶやかれました。小説の主人公・当麻鉄彦は、そんなご自身の「投影」なのでした。

会報編集部・郡司武

# 終末期の基本テーマを学び 班に分かれてユニークな意見交換

研修会は7月15、16日の両日、佐賀県武雄市で開かれ、約60人の参加者が忌憚のない意見を交わしました。前回同様、満岡聰・さが会長（協会本部理事）、白髭豊・ながさき会長の企画です。



(上) グループワークの発表に熱心に聞き入る参加者。(左) スライドを使って説明する板井さん



研修会の目的は、①意思決定支援に関する最新情報を共有し、LW（リビングウイル）普及啓発活動をするファシリテーター（世話人）としての学びを深める、②LW普及啓発をする際に、聴衆の心に響く講演方法を学ぶ、③人生の最終段階について語る者が忘れてはならない「幸福感」や「死生観」を学ぶ、④Diversity & Dialogue（多様性と対話）によるコンセンサス形成を経験する、の4つです。

この研修会は、参加者同士がチームとして、より親密に、忌憚のない意見交換ができるように「合

宿形式」をとっています。この「合宿」というユニークな運営方法が評判を呼ぶのか、前回の佐賀・嬉野研修会にも参加したリピーターが目立ちました。60人の参加者の半数が地域医療を支える医師でしたが、看護師や薬剤師、ケアマネージャー、弁護士、さらには僧侶の方も参加されました。以下は、その2日間のプログラムです。

## 座学で学びグループで議論の2日間

①意思決定支援に関わる日本の情勢について（白髭豊 協会ながさ

き会長）

- ②意思決定支援の具体的な進め方と、どうすれば聴衆の印象に残る講演ができるか（板井孝志 宮崎大学医学部教授）
- ③LWを広めるための効果的な講演（長尾和宏 協会副理事長）
- ④ワークショップ「死の体験旅行」（満岡聰 協会理事）

## 2日目 グループワーク

- ①LWやACP（アドバンス・ケア・プランニング）の講演を効果的に行うために
- ②意思表示ができない人の意思決定支援をどうするか

## 聞く人を惹きつける 講演テクニク

1日目の白髭さんの講演では、LW、AD（アドバンス・ディレクティブ）、ACPの基本的な理解と、厚労省のプロセスガイドラインの正確な内容把握を促したうえで、それに基づいた医療現場での現実を分かりやすく説明されました。大きな視点からの、終末期における意思決定支援のポイントが身に

付く講演でした。

次の板井さんによる講演では、「臨床倫理」というあまり馴染みのない、かつデリケートな分野の話を取り上げつつ解説。特にグレイゾーンの多い終末期においては大事な役割を担う分野でもあり、それは、cure / care giver（医療/ケア提供者）と患者/家族の間の問題に深く関わり、まさに「決定の支柱」ともなるべき分野だと力説されました。「深刻なテーマを深刻ぶらずに語る」板井さんの絶妙な講演テクニクは、人間的な魅力も相まって、聞く人を惹きつけました。

長尾さんは、講演で大事なものは「リズムやテンポ」「実体験をありのままに伝えること」「共感を呼ぶエピソードを語ること」であるとし、全国を講演して回っている経験から、「つかみ」と「共感」「流れること」を大切にすることを勧告。1日目の最後は、「終末期医療」「終末期倫理」「自己決定」「リビ

## 「他人の最善」という 目的に向かい……

2日目のグループワークは、1班6人構成で男女3人ずつ。職種も分かれ、有意義で面白い意見交換とコンセンサス形成がなされました。

同じような人だけを集めると、似たような意見しか出ないものですが、このような班で議論し、特に「他人の最善」という目的に向かって各々がベストと思うことを出し合い、研ぎ澄ましていく過程は、かなりの迫力でした。職種ごとに、真摯で、かつ専門性の高い



第2回養成研修会が行われた武雄市の武雄温泉ハイイツ

提案が次々に出てきていたと感じました。自分の知識や経験だけに頼らず、多様な方々と対話することによって学びを深めることがいかに大事なことか、に気づかされました。参加者全員が多忙の身でありながら、なんとか時間を捻出した意味と価値が感じられる研修会となりました。

参加した医師に「来年もこの研修会に参加しようと思えますか」と尋ねたところ、「是非。次はうちの病院の若手を引き連れて」との答えでした。

企画広報：江藤真佐子

## 第7回リビングウイル研究会

### 終末期鎮静——苦痛のない最期を迎えるために必要か

第7回リビングウイル研究会が、6月23日、東京大学伊藤国際学術研究センターで約400人が参加して開かれた。立ち席が出るほどの大勢の参加者が、今回のテーマ「終末期鎮静—苦痛のない最期を迎えるために必要か」に熱心に聞き入った。



パネルディスカッションでは質問も相次いだ

冒頭、岩尾總一郎・日本尊厳死協会理事長が、「今回のテーマ『終末期鎮静』（セデーション）は、がん患者さんの死亡直前の苦痛に対応する医療措置でありながら、引き続いて訪れる『死との関係』が意識されすぎてか、ともすればオープンに話し合われることが少ない問題になっていった。それだけにタブーなき今日的議論が、今こそ求められているテーマであると思う」と、今回のテーマの企画意図を説明。

田達也医師は、「鎮静の定義」について、「他に緩和の方法がない場合に鎮静薬で意識を低下させて苦痛を緩和させること」と説明。鎮静薬を使うことは、あくまでも「最終手段である」と話した。

#### がん遺族会の代表も参加

続いて「鎮静の倫理」について、会田薫子・東京大学特任教授が、米ハーバード大学メデイカルスクールの医療倫理プログラムフェローの経験などから、「鎮静が許容される理由・鎮静と尊厳死・安楽死の線引き」について講演。ケアタウン小平クリニック（東京）の山崎章郎院長も加わって、症例の紹介がなされた。

第2部は「パネルディスカッション」。①鎮静を必要とする状態・必要としない状態のケース、②



会場いっぱいの参加者が熱心に聞き入り、メモをとる姿もあった

## キュブラー・ロスの研修体験者「フレンズ」の集いに参加して

### 強い感情体験から3カ月 穏やかな時間が流れたひととき

「キュブラー・ロスのワークショップ研修体験」（前号会報に掲載）に参加してから3カ月が過ぎた8月5日、「フレンズの集い」が埼玉県で開かれました。キュブラー・ロスのワークショップ（体験型講座）に参加した人は「フレンズ」と呼ばれ、ワークとグループ対話を目的に、年に数回、「フレンズの集い」として開催されています。

私も、研修で出会った人たちとの交流と、その後の参加者の心身の変化などを知りたいと思い、「集い」に参加してみることになりました。前回5月の研修参加者3人が新たなフレンズとして紹介され、これまでのフレンズ9人とともに昼食を一緒にしながら、和やかな雰囲気が集いは始まりました。フレンズの活動範囲は広く、本業とは別に薬の正しい知識啓発の

講演を全国で行いつつ災害支援ボランティア活動をしている人や、認知症の方たちとのコミュニケーション方法を学ぶバリデーション（認知症高齢者の介護法の一つ）の代表者もいます。ちなみに今回の集いの場になった「てらこや新都心」は、フレンズが亡き親の家を地域の子どもたちに居場所として開放しているところでした。

#### 心の変化を話す姿は 印象深いものだった

今回は「自己肯定感」について、スライドを使ってワークが行われました。先導するフレンズは、ワークショップが始まったところからのベテランフレンズでしたが、かつては自己肯定感が低くて辛かったという自らの「体験談」を織り交ぜながら話を進めていきます。前回の研修参加者が「今までは

すべてにおいて自分のことは後回しにしてきたが、自分の気持ちを優先してもよいと、ワークを体験して気づいた。不安はあるが納得できる仕事がしたいと思いついた」「よい意味で母の言葉を思い出すことが多くなり守られていると感じる。今は自分がやっていることを心配しながらも褒めていたことを兄や知人から聞くと、母を素直に受け入れられるようになった」などと、心の変化を話す姿に深い印象を持ちました。

前回のワークショップでは、胸の奥が揺さぶられるような強い感情体験をしました。が、「フレンズの集い」は、穏やかで心地よい時間が流れるひとときでした。日本尊厳死協会の医療相談で「どんなに親しい友人でも死についてオープンに話すことはできないが、この電話相談ではありのままを話せるのでほっとできる」と言われた方がいました。居心地が良い、と感じられる場所の一つとして協会の「医療相談」を思い出して利用していただくと幸いです。日本尊厳死協会電話相談員・平林池保子

医療相談  
(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日  
午後1時～5時(変更あり)

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員(看護師)が丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

協会宛メール( info@songenshi-kyokai.com )でも受けつけております。

# LW受容協力医師制度の展望

ルポ——「常に患者の側に立つ」を深く胸に刻み、

## 地域・在宅医療を支える鈴木悦朗医師(63歳)の奮闘

薬剤師から「医師への道」を選んだ時から一貫して変わらない「患者ファースト」の精神。横浜・日横クリニックで地域と連携し、ますます進行する高齢化の波に立ち向かう。



東横線日吉駅近くの商店街の中にクリニックはある。学生が多い街だ

「看取り」は何も高齢者ばかりではない。若い患者の最期に寄り添うこともある。鈴木悦朗医師にとって、深く胸に刻まれた忘れられない一つのケースがあった。

S夫さん、38歳。病院から訪問診療を頼まれて、その自宅を訪ねた時だった。薄暗い部屋の中で目だけギラギラとさせ、苦痛の表情を浮かべて介護用ベッドに横になっていた。胃がん末期だったS夫さんは「一つの頼み」を口にする。「一番下の3番目の子どもが1歳になるのを見届けたい」。

全身の浮腫と腹水、陰嚢水腫で陰嚢は通常の十倍以上の大きさで念発起する。3年半勤めた病院を辞め、医師を目指し、猛勉強を始めた。

「格差や、現状への不満」に対する強いバネがあったんですね」と水を向けると、「バネというか、薬剤師になってみて、強烈な意志が生まれたんだと思います。当時ですが、医師は患者のほうを向いていないで、出てきた大学や上のほうばかり向いているというような印象でしたから」と振り返る。

1年半後、佐賀医科大学(現佐賀大学医学部)に合格。幼い子ども2人を抱え、妻とともに、生まれ育った横浜から遠く離れた九州での生活が始まる。家庭教師と薬剤師のアルバイトを6年間続け、卒業。「鈴木医師」が誕生する。とはいえず、すぐに薬にはならない。卒業後、横浜に戻り研修医になったが、当時の研修医の給料は少なく、あちこちの病院の当直をして生活費を賄う日々だったという。

「先生は薬剤師でもあるので、処方される薬が安心なんです」「医学の最新情報やジェネリック医薬品情報にも詳しいし、何よりも勉

に膨れ上がっていた。医師から半ば見放され、医療不信のような状態に陥っていたS夫さんに、鈴木医師は言った。

「あなたの病気は治せないけれど、今のような状態は必ず改善させます」

「あなたの病気は治せない」と正面から言うのは、医師としてそうとう勇気が要ることですよね」と問うと、鈴木医師は「そうですね、彼は医療不信に陥っていましたから、まずその不信を取り除いてやるのが大事だと思いましたが」と言う。アルブミンを注入することで利尿をはかったりし、腹

水と陰嚢水腫を改善させた。改善させたことで、ようやくS夫さんと普通に会話ができるようになり、表情にも少し笑顔が戻ったという。看護師でもある彼の妻の献身的な介護も大きな支えとなった。

原病を治すことはできなくても苦痛を緩和することはできる。そうすれば本人や家族の『生活の質』を向上させることができる——。「患者や家族に寄り添うということとは、こういうことなんだ」と、そのとき強く感じたという。鈴木医師に看取られて、S夫さんは亡くなった。子どもが1歳になる数

強家だと思えます」と今、そんな患者さんの声が寄せられる。

### 協会の「不治かつ末期」の患者への対応に共感

東急東横線の日吉駅。慶応大学の近くに日横クリニックがある。

駅から歩いて1分ほどの繁華街のビルの2階と3階。23年前に開業して、その3年後に3階に訪問看護ステーションを設立。在宅医療のさらなる充実に向けて大きく踏み出した。ここ数年、在宅での看取りは年に20〜30人。次第に増えてきているという。当初から、専門医というよりプライマリケアや在宅医療に力を入れてきた鈴木医師は、「地域の病院や診療所、介護施設と連携して、今後ますます進行する高齢化の波をなんとか乗り越えていきたい」と熱く語る。

日前だった。

### 薬剤師になって芽生えた「医師」への強烈な意志

「これほど敷居を感じさせない主治医はいないのではないか。かかりつけ医はどうあるべきかを鈴木先生は示している」と、仲間の医師の間での評価も高い。

そんな鈴木医師の「医師への道」は決して平坦ではなかった。高校を出て薬科大に入学し、卒業後は病院に薬剤師として勤めた。しかし、そこにあったのは、看護師の下請けのような仕事や、医師と薬剤師の「格差」だったという。一

日横クリニックは、理念の1つに「患者および利用者のニーズを正確に捉え、そのニーズを具現化する努力を惜しまない」と掲げている。この「患者ファースト」の精神は、薬剤師から医師の道を選んだ時から、一貫して変わらない。「常に患者の側に立つ」というのが、医師を目指した時からの強い思いで、その初心を忘れないように掲げてるんです。掲げてやっていかないと、どうしてもダラけてしまうでしょ。ダラケれば、スタッフにもわかりますから。掲げることで、自分を奮い立たせているんです」

2年前、あるケアマネジャーとの縁で、尊厳死協会の受容協力医師に登録した。「不治かつ末期」の患者への対応に共感したからという。終末期の患者の意思を、家族も交えて正確に捉え、本人の意思が尊重されるような最期を迎えさせてあげたい——。終末期患者の心に寄り添う「患者ファースト」の理念は、揺るがない。



パソコンに向かう鈴木悦朗・日横クリニック院長。柔和な印象だが「視野の広さと鋭い洞察力がある」と医師仲間から見ている

季節を感じさせる1枚の写真と  
懐かしい唱歌でつづるページです

# 四季の歌

— その風景と背景 —

第六回

## 紅葉

● 文部省唱歌



秋の夕日に照る山紅葉、  
濃いも薄いも数ある中に、  
松をいろどる楓や蔦は、  
山のふもとの裾模様。

溪の流に散り浮く紅葉、  
波にゆられて離れて寄って、  
赤や黄色の色様々に、  
水の上にも織る錦。

(『尋常小学唱歌(二)』明44・6)より

小学唱歌の黄金コンビ・高野辰之(作詞、岡野貞一(作曲))による。この『紅葉』の舞台は、碓氷峠にあった信越本線熊ノ平駅(現在は廃線・廃駅)からの眺めとされる。異説もあるが、高野の「子息は」この歌の舞台は熊ノ平駅周辺の風景」と父親が話していたのを覚えているという。信州・中野市生まれの高野は当時、東京音楽学校教授。故郷と東京とを行き来する際、勾配のきつい碓氷峠をアプト式鉄道でゆつくりと走る汽車の窓から、錦秋に染まる峠の山々の美しさに詞の想を得たのだろう。夕日に照り映える山紅葉、山麓の裾模様、色様々に織る錦……。日本の秋の色彩が絵画のように鮮やかに浮かび上がる。「日本の歌百選」にも選ばれている。

一気に走り去る新幹線時代の現在、四季の移ろいに溶け込みつつゆつくりと移動する時代は、もどかしくもあるが、豊かでもあったか。

# LWのひろば

## 母の二の舞だけには……

森崎 勉 68歳 北海道

脳出血に認知症、床ずれ、大腸がんの病巣3つ摘出。これが平成25年に96歳で亡くなったときの母の病状です。農家の主婦として農作業はもちろん、子育て、家事とよく働いてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

母が元気なときの口癖は「年老いて寝たきりになったら、早く楽にしてほしい」でした。寝室に白い紙のようなものが貼ってあったので何かと尋ねたら、「苦しまないで逝ける

ためのお守り(護符)」とのことでした。

85歳を過ぎたころから、旭川市の旭山動物園近くの病院へ入院を繰り返すようになり、90歳あたりからは口がきけなくなりました。症状も悪化の一途で、かなり苦しそうな状態。大量の輸血をしても快方に向かいません。入院費も多いときで月に約70万円。平均で約55万円と高額。

見舞いに行くたびに母は、「苦しい。もうだめだ。あれほど頼んでおいたのになぜ楽にしてくれないのか!」と訴えているように思えてなりませんでした。主治医に泣いて頼

んでも「本人の意思ではないから」の一点張り、延命治療を続け続けます。家族の承諾なしで勝手に輸血をしようとしたときには、病院側に「なにか別な意図」があるのではないかと、勘ぐらざるを得ませんでした。

私は、母のようにはなりたくないもので、平成28年に日本尊厳死協会に入会して「リビングウイル」を家族にはっきりと託しています。

## 会員証はバッグに入れ

広川ミエ 84歳 新潟県

10年ほど前のことです。脳梗塞を発症した従姉は、2、3の病院を転々とし最後は胃ろうになり、名を呼んでも反応がない状態が数年続いた末に亡くなりました。夫や息子3人も医師なのに、どうして胃ろうを選択したのかわかりません。

娘婿の父親は、がんと脳梗塞で長く入院中ですが、最近とみに食欲が落ちてきました。今後の処置について担当医から家族に相談があり、息子たちは「胃ろうはしないほしい」と伝え、世の中の考え方が「無理な延命はしない」方向に、徐々に

変わってきたと感じています。

私は、日本尊厳死協会の会員である従弟の勧めなどで、平成28年に入会しました。送られてくる会報を読了後は、子どもたちに回しています。会員証と「リビング・ウイル(終末期医療における事前指示書)」は、保険証と一緒にバッグに入れて持ち歩いています。いよいよの時、担当医がスムーズに受容してくださるか不安もあります。

わが国でも法律が早く成立することを切に望みます。

## 一人暮らしに思うこと

小林浩子 76歳 東京都

両親の介護を終え、二人を神さまのもとへ送ってから、私の一人暮らしは始まりました。年を重ねるにつれ体が自由に動かなくなり、今は介護保険の助けを借りています。が、いろいろ制約があり、思うようには動かせません。介護していたときは「この大変さを思えば、これから先どんなことにも耐えられる」と思ったことは間違いだったと今、気づかされました。なぜなら、今の状態を素直に受け入れられないから。

遠い日に、実家で実母(私の祖母)に手を握られ、若くして亡くなった母の死の迎え方を羨ましくも思いながら、私はどのように、その最期の日を迎えるのだろう、と一人思いながら、日々を過ごしています。

## 「四季の歌」に出会って

田村敦子 70歳 北海道

母の記憶がだんだん怪しくなっていくなか、「歌がいい」と聞き、歌詞が大きく書いてある唱歌の本を探していました。

昨年の夏、会報のなかに「四季の歌」のページを見つけ、母に見せると潮の香りがするような海の風景にしばし見入っていました。小樽で生まれ育った母は懐かしそうに「海はいいね」と一言。私も頷き、歌詞を見ながらゆっくり「我は海の子白浪の」と歌い始めると、母の口から自然に声が出て、ハモるように歌いました。会報が届くたびにページを外し、歌の数は増えていきました。第4回の「朧月夜」は母の大好きな歌でした。食事の後や母の気分のよい時に二人で歌うのが、いつしか習慣になりました。

ある日、「あなた、歌うまいね」と母に褒められ、「お母さん、いまごろわかったの?70年も付き合っているのに」と、少しテレながら言う。二人で顔を見合せて笑いしました。久しぶりの大笑いでした。最後まで自宅に居ることを希望する97歳の母ですが、若いころから尊厳死協会の趣旨に賛同し、会員となって講演会にも出かけていました。おかげさまで今、「四季の歌」に出会い、「今度は何の歌だろうね」と次号を楽しみに待っています。

### 編集部より

- 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。
- 写真の募集 1月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは11月15日です。



秋色あざやか  
東京・新宿御苑の  
池に映える紅葉  
撮影/上坂 誠

介護中は大変なことたくさんあったけれど、体は自由に動いてくれました。今はその頃を思い返し、体が自由に動いてくれることがどんなに大切なことか、日々痛感しています。

## 東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

### 第5回日本リビングウイ ル研究会 東北地方会

戦後のベビーブームで生まれた団塊の世代の人たちが、あと数年で後期高齢者になります。わが国の平均寿命は年々伸び、かつてない超高齢・長寿多死社会になると予想されています。その時、あなたなら、どうしますか？

日程◎10月28日(日)午後1時半～4時

会場◎仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」  
仙台市青葉区五橋2-12-2 地下鉄南北線「五橋」駅南1番出口 徒歩3分

テーマ「**どうする? 長寿多死社会**」

#### 第1部 基調講演

「リビング・ウイルの勧め  
—長寿多死社会の処方箋」

岩尾總一郎 日本尊厳死協会理事長

#### 第2部 討論

「**どうする? 長寿多死社会**」

コーディネーター◎橋村 襄 協会東北支部長

#### パネリスト◎

森田 潔氏 気仙沼市医師会会長・受容協力医師

佐藤富美子氏 東北大学大学院医学系研究科教授

京野アイコ氏 主婦

岩尾總一郎 日本尊厳死協会理事長

定員◎300人(無料)

問い合わせは、日本尊厳死協会東北支部(☎022-217-0081)まで

後援◎宮城県医師会、仙台市医師会、河北新報社

### 第30回「仙台駅横 リビング・ウイ ル 交流サロン」

日程◎10月5日(金)午後2時～3時半

会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室  
(JR仙台駅西口 徒歩3分)

テーマ「**長寿多死社会を生き抜く**  
—もう一度、事前指示書」

お誘い合っ、どなたでもどうぞ。参加費無料

### 東北支部 活動報告

#### 「駅横交流サロン」が7年、30回に!

—本部の「鎮静」議論を受けて盛り上がる

「会員の声、会員の考えを聴こう」と、スタートした「仙台駅横 リビング・ウイ  
ル交流サロン」が7年目を超え、この10月で30回となった。

東北支部では、「支部大会」と称する、著名な人の講演会・討論会を毎年1回、東北6県持ち回りで開いている。また、年に1、2回、医療関係スペシャリストや大学教授、ジャーナリストなど支部理事らによる「最新・講演会」、それに本部で開いている「リビングウイ  
ル研究会」の「東北ローカル版」を年1回、開催している。このほか、ミニ講演会、出前講座などを随時、開いているが、いずれも数百人を前にして壇上からの「やむを得ず、一方的な話」になってしまっている。しかし、「会員は今、何に悩み、何を考え、何を希望しているのだろうか」を知るには、それでは弱い。そこで、会員を主役にして、支部がわき役に回る集まりを開いている。それが「駅横サロン」だった。

今年7月13日に開いた「交流サロン」第29回目のテーマは「終末期鎮静—本部での研究会議論を踏まえて」。本部での「第7回 日本リビングウイ  
ル研究会」のテーマ「終末期鎮静」の議論を踏まえ、持ち寄った家族の事例などを加えて話し合った。専門的で、論議の多い重いテーマのため、参加者が少ないのではないかと心配したが、一般市民を含めての参加者が多く、かつ熱心な意見表明の場となった。

「終末期鎮静」を東北支部「サロン」で扱うのは2度目。最初は、2年前の1月、NHK「クローズアップ現代」で提起され波紋を呼んだ終末期医療の在り方を題材としての会で、多くの参加者があった。

この「仙台駅横サロン」開催で、支部が気をつけていることは、「場・時・題」。「場」は一般市民だけでも参加できるよう、仙台市で交通の便利なJR仙台駅に隣接したビルの6階、役員会議室仕様の部屋、「時」は3カ月ごとの会報発刊日の金曜日の午後、「題・テーマ」は時宜にかなったものを前もって決め、会報などで示し、その資料をそろえる—ということにしている。

おかげさまで、この会では協会発行の書籍販売が好評で、協会入会を希望する人も毎回、数多く出ている。

## 北海道支部

☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

### 帯広とかち定期講演会

日程◎10月6日(土)午後1時半～4時

会場◎とかちプラザ会議室  
帯広市西4条南13丁目1  
(JR帯広駅南口正面)

講演◎「**葬儀についての相談とエンディングノートについて(仮)**」※納棺体験を予定

定員◎80人(無料・予約不要)

### 石狩南部地域懇話会秋季研修会

日程◎11月17日(土)午後1時半～3時半

会場◎千歳市社会福祉協議会2階会議室

テーマ・講師・定員◎未定

## 四国支部

☎ 089-993-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

### リビングウイ ル香川懇談

テーマ「**自分らしい人生の終い方  
～尊厳死と高齢者介護**」

日程◎11月25日(日)午後1時～3時

会場◎生涯学習センター  
まなびCAN 2階 大研修室  
(香川県高松市片原町11番地1)

講師◎長田志保氏  
扇ヶアプランセンター主任介護支援専門員・看護師

定員◎90人(無料、申込不要)

### 松山市みんなの生活展2018

日程◎10月20日(土)午前10時～午後4時

会場◎大街道商店街1丁目～2丁目

※市民への広報を目的に専用ブースを設け協会理念の普及活動実施

### 旭川上川地区懇話会

日程◎10月30日(火)午後6時半～8時

会場◎旭川市民活動交流センター CoCoDe  
(JR旭川四条駅から徒歩15分)

定員◎30人(無料・要申込)

テーマ「**終活について**」

講師◎柴田笑子氏 北海道支部理事

### おしゃべり広場

日程◎10月15日(月)、11月20日(火)、  
いずれも午前10時～正午

会場◎札幌エルザの4階研修室  
(JR札幌駅北口近く)

定員◎いずれも先着20人(無料・予約不要)

### 終活ワンコイン(500円)セミナー

日程◎10月30日(火)13時半～15時

会場◎ひめぎんホール別館第14会議室(松山市)

演題◎「皆さんで尊厳死を考えましょう」

講師◎上田暢男

四国支部副支部長(元愛媛県立中央病院院長)

### 支部サロン

#### 喫茶去だんだん

みんなでお茶を飲みながらおしゃべりしましょう!!

日程◎10月5日・11月2日

#### 趣味あれこれ会

絵手紙を楽しみましょう!!

日程◎10月19日・11月16日。12月はお休み。いずれも金曜日、午後1時半～3時半、支部事務所(松山市)

## 第5回日本リビングウイル研究会 東海北陸地方会

### テーマ「A・C・P推進のために」

(ACP=アドバンス・ケア・プランニングとは、将来の意思決定能力の低下に備えて患者、家族、医療者がケア全体の目標、具体的な治療・療養について話し合う過程)

日程◎11月25日(日)午後1時半～4時半

会場◎愛知県医師会館9階大講堂  
(名古屋市中区栄4。中日ビル50メートル南)

挨拶◎岩尾總一郎 日本尊厳死協会理事長

#### 基調講演1

地域におけるアドバンス・ケア・プランニング  
講師◎西川満則医師 国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部

#### 基調講演2

最後までお家で過ごすために必要な『ACP』…もっとわかりやすく  
講師◎森 亮太医師 八事の森理事、杉浦医院院長

#### 講演のあと意見交換

※日本医師会生涯教育認定講座になります。

共催◎愛知県医師会、名古屋市医師会

後援◎中日新聞社

## 地域サロンへどうぞ

日程◎10月23日(火)、12月25日(火)  
午後1時半～3時

会場◎名古屋市中村区の青木記念ホール  
(地下鉄中村公園駅から徒歩5分)

終末期医療、在宅介護などを語り合いませんか。  
希望者は支部までご連絡を。無料

### 東海北陸支部 活動報告

#### 「シンクタンクの会」の講演が 内科医会の会誌に

東海支部(現・東海北陸支部)が4月に編集・発行した抄録「第8回シンクタンクの会」に収録された基調講演が、名古屋内科医会(安藤忠夫会長)の会誌に掲載された。

シンクタンクの会は、東海支部(当時)が愛知県医師会、名古屋市医師会と共催で毎年2月に開いてきた「終末期医療研究会」。主な参加者は医師だが、支部は毎回抄録を発行、出席者らに配布してきた。第8回目はA 4判、24ページにまとめた。

名古屋内科医会会誌に掲載されたのは、大野竜三・愛知県がんセンター名誉総長の基調講演「リビングウイルの現状と展望」。会誌の「ACPを考える」のコーナーに掲載された。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)は、終末期医療をめぐる患者・家族と医療者側が十分に話し合う相談過程のことで、現在、LW作成に望ましい形とされている。

安藤会長は「ACPはまだ患者さんに説明する適切な用語となっていない。話し合う現場で理解しやすい用語が必要で、参考になればと掲載した」と話している。

大野さんの基調講演は「LWがなぜ必要か」に始まり、LWや事前指示書をめぐる国内外の最新の動向まで触れている。ACPについても「普及には実施医療機関へ何らかのインセンティブ(経済的効果)を与えることが必要」と言及している。

「抄録」には、青山邦夫・尊厳死協会副理事長の基調講演「LWをめぐる法的問題」も掲載、「分かりやすい内容」との感想も支部に寄せられている。

#### 尊厳死をテーマに女子高生も

名古屋市内の私立高校教職員組合と父母の会などが実行委員会を組織して、毎年夏に主催する「愛知サマーセミナー」に、今年も東海北陸支部は7月15日、「終末期の迎え方(尊厳死の立場から)」をテーマに講座を開設しました。

サマーセミナーは今回で30回目。これまで益川敏英、天野浩両ノーベル賞学者をはじめ著名な学者、政治家、評論家、音楽家、俳優らが全国から特別講師に招かれ、3日間で約2000講座、約5万人が参加します。

東海北陸支部の講座は3年前から。テーマの概要は「尊厳死について」。今年は椋山女学園大学内だったこともあり参加者は19人。狭い演習室は満杯でした。

19人のうち8人が高校生。「父の今後について家族の意見がまとまらず困っている」といった年輩者の質問に混じって、女子高生から「尊厳死協会は若い私たちに何を期待しているのか」といった発言があり、ハッとさせられました。(支部長・小林司)

## 公開講演会 in 大井町

日程◎10月25日(木)午後1時半～4時半

会場◎きゅりあん大ホール  
品川区東大井5-18-1 ☎03-5479-4100 (JR京浜東北線・東急大井町線・りんかい線 大井町駅下車 徒歩1分)

### テーマ「穏やかな最後を迎えるために」

講師◎長尾和宏  
日本尊厳死協会副理事長 医学博士  
定員◎1000人(無料・申込不要・先着順)

## 《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながらお話しする集いです

### | サロン in 溝の口

日程◎10月4日(木)午後2時～4時

会場◎高津市民館第5会議室  
川崎市高津区溝の口1-4-1 ノクティ2 12階 ☎044-814-7603 (JR南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝の口駅下車 徒歩4分)

定員◎50人(無料、申込不要、先着順)

### | サロン in 川口

日程◎10月6日(土)午後2時～4時

会場◎川口市幸栄公民館 講座室  
川口市幸町3-8-33 ☎048-251-7242 (JR京浜東北線川口駅下車 徒歩4分)

定員◎42人(無料、申込不要、先着順)

### | サロン in 南大沢

日程◎10月13日(土)2時～4時

会場◎八王子市南大沢文化会館 2階 第2会議室  
八王子市南大沢2-27 ☎042-679-2202 (京王線南大沢駅下車 徒歩3分)

定員◎36人(無料、申込不要、先着順)

### | サロン in 本郷

日程◎10月12日(金)、27日(土)、  
11月9日(金)、24日(土)、  
12月14日(金)、22日(土)。  
いずれも午後1時半～3時

会場◎支部事務所  
文京区本郷2-27-8 太陽館ビル5階尊厳死協会内 ☎03-5689-2100 (地下鉄丸ノ内線か大江戸線本郷三丁目駅下車すぐ)

電話予約が必要です。支部までお願いします。

ご案内 難聴者の方で、サロンなどイベントに参加をご希望の方は支部までご一報下さい。可能な範囲で対応いたします。

## 《公開出前講座》のお知らせ

### | 出前講座 in 春日部

日程◎10月7日(日)午後2時～4時

会場◎春日部市民文化会館 小会議室  
春日部市粕壁東2-8-61 ☎048-761-5811 (東武線春日部駅下車 徒歩15分)

定員◎50人(無料、申込不要、先着順)

テーマ「私が決める自分の最期」(協会支部理事がお話します)

### 関東甲信越支部 活動報告

#### 猛暑のなか、 熱心に「最後のあり方」を

千葉県内では2年ぶりとなる関東甲信越支部主催の「公開講演会」が7月14日(土)、船橋市中央公民館で開催されました。船橋市及び船橋在宅医療ひまわりネットワークの全面的な支援、さらには千葉県医師会・船橋市医師会・千葉日報社の後援も得ることができ、例年のない猛暑をおして120人を超える熱心な参加者が集まりました。

船橋市健康福祉局の伊藤誠二局長の挨拶の後、岩尾總一郎・日本尊厳死協会理事長が、「安らかな看取りを求めて」と題し、最近亡くなられた落語家でテレビ番組「笑点」の司会としても活躍された桂歌丸師匠の実例もあげて、協会が考える「尊厳死」と「安楽死」の違い、リビングウイルの重要性などについて、さまざまなデータも交えながら説明。

二人目の講演者として、地元船橋で20年以上にわたって在宅診療に携わっている医療法人弘仁会板倉病院訪問診療部の久野慎一医師が登壇。「最後まで自分らしく生きる」のテーマに沿って、施設(病院)と在宅とのメリット・デメリットの比較、在宅に必要な準備、さらに緩和医療の目標、人が亡くなる際の症状や対応等について、現場からのナマの意見も交えながら細やかに分かりやすく話されました。

講演後は参加者から熱心な質疑応答も(なかには励ましの声も)あり、暑いなか3時間が、あっという間に過ぎてしまいました。

九州支部おおいた  
第19回市民公開講演会テーマ「人生の最終章の備えに  
～これだけは知っておきたい、  
しておきたい～」日程◎10月20日(土)午後1時半～4時  
会場◎中津市教育福祉センター 多目的ホール  
(大分県中津市沖代町1丁目1-11。☎  
0979-24-1294)

定員◎150人(無料、予約不要)

講演1「穏やかな死を迎えるために  
必要な準備は？」講師◎川野克則 オアシス第2病院院長、尊  
厳死協会おおいた理事講演2「人生の最終段階における意思決定  
支援～尊厳ある生と死のために～」講師◎小野隆宏 ハートクリニック院長  
お問い合わせ◎九州支部おおいた事務局  
麻生(☎0977-23-2345)

## くまもと第10回県民フォーラム

日程◎10月20日(土)午後1時半～4時  
会場◎熊本県医師会館 大ホール  
(☎096-354-3838)

## 第1部 特別講演

「終末期医療をめぐる最近の動向」  
座長◎吉田仁爾 尊厳死協会くまもと副会長  
講師◎安藤正幸 尊厳死協会くまもと会長

## 第2部 パネルディスカッション

テーマ～あなたの最後は  
どこで迎えたいですか～  
終末期における意思決定支援と看取りの取り組み  
司会◎田中不二穂 表参道吉田病院副院長

## パネリスト◎

本庄弘治 本庄内科病院院長  
吉田千賀子 老人保健施設なでしこ看・介護部長  
木村哲也 イエズスの聖心病院院長

定員◎300人

後援◎熊本県、熊本市、熊本県医師会、熊本市医師  
会、熊本県看護協会、熊本県老人保健施設  
協会お問い合わせ◎くまもと事務局(表参道吉田病院  
内 藤本) ☎096-343-6161

## 講演会(ふくおか)

日程◎10月20日(土)午後1時半～4時  
会場◎ポートレース芦屋多目的ホール「夢リア」

講演1「尊厳死について」

講師◎松股孝 九州支部ふくおか会長

講演2「食べる楽しみを支える  
プロフェッショナル達」講師◎杉町圭蔵 遠賀中間医師会病院統括院長  
定員◎300人(無料、要予約)  
お問い合わせ◎遠賀中間医師会在宅支援センター  
(副田) ☎093-281-3100  
後援◎日本尊厳死協会、西日本新聞社

## ながさき市民公開講座

日程◎11月25日(日)午前10時～  
会場◎長崎大学医学部記念講堂

テーマ1◎日本尊厳死協会の紹介

講師◎白髭豊 白髭内科医院院長、尊厳死協会な  
がさき会長テーマ2◎最期まで自分らしく「生きる」  
ために—終末期医療とエンディングノート—講師◎板井孝彦郎  
宮崎大学医学部教授(臨床倫理部部長)定員◎400人(無料、予約不要)  
後援◎長崎県、長崎市、長崎県医師会他  
お問い合わせ◎ながさき事務局(白髭内科医院  
内) ☎095-822-5620

## 九州支部 活動報告

## 「多世代共生社会こそが自然の姿」

7月21日に福岡市で行われた「ふくおか講演  
会」は「社会福祉施設を拠点とした多世代共生社  
会を目指して」というものでした。講師の権頭喜  
美恵さんは、九州支部ふくおかの役員で社会福祉  
法人もやい聖友会理事長。以下はその要旨です。「人は、社会の中で家族や地域の人、さまざま  
世代の人と関わりながら生活しています。ところが、  
要介護になったり障がいをもったり、また、家  
族が子どもを養育出来なくなったりすると、縦割  
りの制度の中では、他世代とは隔離された生活と  
なってしまうことが多々あります。それは、とても  
不自然なこと。おたがいさまの精神で助け合える  
多世代共生社会こそが自然な姿なのです」

## サロン交流会

テーマ「“尊厳”とはそもそも何だろう？」

日程◎11月24日(土)午後1時半～3時半  
会場◎関西支部事務所(JR新大阪駅、地下鉄御堂  
筋線新大阪駅から徒歩5分)港谷理事が担当します。専門的な難しい話はしま  
せん。素朴な疑問、死生観などを皆で話し合う会  
です。

## 定例サロンへのお誘い

日程◎毎月第2、4火曜日 午後1時半～4時  
10月9日、23日、11月13日、27日、  
12月11日支部事務所に支部理事がいます。みんなの前では  
質問しにくいこと。悩んでいることをざっくばら  
んにお話しにきてください。支部事務所はどこな  
ところ？見学だけでもOKです。

## 中国地方支部

## 中国地方支部 活動報告

## 公開講演会「今を生きるコツ」に感動

9月2日、広島国際会議場で、チャプレンとして  
緩和ケア病棟でカウンセラーとして活動している  
沼野尚美さんに「今を生きるコツ」と題して講演  
をいただきました。7月豪雨災害の影響もあり、こ  
れまで通りのPR活動ができませんでしたが、配布  
チラシや知人からの紹介などで、会員の倍の一般  
の方の参加をいただきました。ユーモアに富みラ  
イブ感に溢れた講演で、多くの方は目頭を熱くさ  
れていました。講演会の感想を一部紹介すると、「心がふるえ  
ました」、「スーパー講師、素晴らしい講演」、「こ  
ころに響きました」、「笑いの中にホンモノが詰ま  
っていました」、「講演メモを座右の銘とします」など、  
講演会後にお願したアンケートのコメントに再  
演を希望する意見を多くいただきました。島根県庁と松江市庁舎に  
会報誌を送り、一般公開へバックナンバー  
となる協会の会報  
誌を島根県内の2  
か所に継続的に  
お届けし、一般の方  
にも閲覧いただけ  
るようにいたしま  
した。会員紹介による  
受容協力医師第1号が誕生！会員の方からの紹介を受けて、中国地方支部か  
ら受容協力医師登録をお願いしたところ、二宮内  
科(広島市安佐北区可部)の二宮正則医師にご登  
録をいただきました。二宮医師が、会員の方から  
の紹介で受容協力医師に登録いただいた第一号  
となります。中国地方支部では今年度、受容協力医師の登録  
を数多くいただくべく活動をすすめています。引  
き続き会員の方からの、かかりつけ医のご紹介を  
お待ちしております。

※今号での活動予定掲載情報はありません。

かかりつけ医師をご紹介ください  
LW受容協力医師を増やしましょう会員皆様の不安として周辺の医師に受容協  
力医がないことがあると思います。不安を  
少しでも和らげるため、皆様のかかりつけ医  
をご紹介していただければ、支部よりその医  
師に「協会の受容医登録」をお願いします。  
詳しくは会員証をご準備の上、中国地方支部  
までご連絡をお願いします。会員の①お名前  
②会員番号③お電話番号、かかりつけ医の  
①お名前(医院名)②住所③お電話番号をご  
用意のうえ支部へ電話あるいはメールによ  
ろしくお願いします。

# LWの受容協力医師

第93報

2018年6月～2018年8月の間に新しく登録なさった医師の方々です。

【会員医師は☑とする】

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
輪厚三愛病院	内科 循環器科 呼吸器科 消化器科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 歯科	対馬伸泰	北海道北広島市輪厚704-16	011-377-3911
坂本アレルギー・呼吸器科医院	呼吸器科 内科	坂本祥一	青森県弘前市安原2-13-10	0172-39-6110
八木クリニック	内科	瀬戸博美	東京都港区南青山5-4-35-606	03-5469-8848
明正会 錦糸町クリニック	内科	井上貴裕	東京都墨田区太平3-10-12-3F	03-5637-7185
ふくろうクリニック等々力	内科 精神科	山口 潔	東京都世田谷区等々力3-5-2-3F	03-5758-3270
聖路加国際病院	循環器内科	新沼廣幸	東京都中央区明石町9-1	03-3541-5151
そめや内科クリニック	内科	染谷貴志	神奈川県川崎市高津区末長1-45-1-1F	044-712-3366
守成会 広瀬病院	内科 在宅	廣瀬憲一	神奈川県相模原市緑区久保沢2-3-16	042-782-3021
我孫子聖仁会病院	内科	為本浩至	千葉県我孫子市柴崎1300	04-7181-1100
まるクリニック	内科 小児科 神経内科 緩和・リハビリテーション科	丸山善治郎	埼玉県草加市草加1-18-12-2F	048-951-1830
茅ヶ崎信愛クリニック	内科 消化器内科 外科	後藤研一郎	神奈川県茅ヶ崎市新栄町5-8	0467-82-2554
とくしげ在宅クリニック	総合診療科	高林 新	愛知県名古屋市長区徳重5-415	052-680-9705
とくしげ在宅クリニック	総合診療科	米村 穰	愛知県名古屋市長区徳重5-415	052-680-9705
とくしげ在宅クリニック	総合診療科	伊藤 剛	愛知県名古屋市長区徳重5-415	052-680-9705
NTT西日本 大阪病院	消化器内科	若原佑平	大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40	06-6773-7111
市立川西病院	緩和ケア外科	杉本圭司	兵庫県川西市東畦野5-21-1	072-794-2321
栄町クリニック	内科	松浦喜房	鳥取県鳥取市栄町211-2	0857-21-3111
奈義ファミリークリニック	内科 小児科	松下 明	岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1	0868-36-3012
佐藤医院	内科 アレルギー科 リハビリテーション科	佐藤涼介	岡山県岡山市北区旭町15	086-223-7746
かとう内科並木通り診療所	内科	加藤恒夫	岡山県岡山市南区並木町2-27-5	086-264-8855
神経内科クリニックなんば	神経内科 内科	難波玲子	岡山県都窪郡早島町若宮3541-15	086-483-1701
やすぎクリニック	内科	石根昌幸	島根県浜田市下府町69-1	0855-28-1911
金城沖田医院	内科	沖田瑠二	島根県浜田市金城町七条ハ393	0855-42-1800
やまぐちホームケアクリニック	外科 内科 緩和内科	山口 剛	広島県広島市安佐北区口田1-21-25	082-843-3030
花園クリニック	精神科 内科 外科 婦人科 泌尿器科	榑崎幹雄	広島県福山市花園町1-3-9	084-932-6303
寿会 永山医院	内科	汐見千寿	広島県広島市中区白島北町10-1	082-221-2811
二宮内科	内科	二宮正則	広島県広島市安佐北区可部5-14-16	082-810-0188
しおん内科外科クリニック	内科 外科	川端章弘	山口県山陽小野田市日の出3-7-2	0836-83-1331
ハートクリニック南山口	内科	兼定博彦	山口県山口市深溝803-1	083-988-3333
実昌会 中司内科	内科 循環器科 呼吸器科 アレルギー科	中司昌美	山口県防府市大字田島587-1	0835-27-0350

# 会報のメール配信登録のご案内

## 会報「リビング・ウイル」をメールマガジンとしてお送りしています

入会ご希望の方にお送りしております「入会のご案内」の中に、「リビング・ウイル—Living Will—」終末期医療における事前指示書「」があります。その記入欄に、「氏名」「住所」とともに、2017年7月改訂版からメールアドレスをお書きいただく欄を設けました。

お書きいただく方はまだ少なく、会者の3割ほどにとどまっていますが、それでもメールアドレスの登録は2000件を超えました。その際に予告しておりました「会報のメールマガジン配信」を、今年の会報7月号(6月25日配信)から開始いたしました。現会員の方で希望される方は、日本尊厳死協会のHP(ホームページ)からアクセスして、メールアドレスの登録をお願いします。ご登録次第、配信を開始いたします。

### 発行の目的

会員が必要とする情報を逐次配信する連絡ツールとしても活用します

### 登録のメリット

協会から送られる情報を共有し、会報をいち早く読むことができます

### 発行日と頻度

会報は1月、4月、7月、10月の各1日発行の年4回ですが、メールマガジンは前月の25日に配信します

### 料金

無料

会報をいち早く読むことができます



大鐘稔彦さん  
医師の理念を貫きつづ  
小説も書き続けたい



### 【受容協力医師についてのご案内】

全国に1800名ほどの医師が登録しておりますLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ(HP)で閲覧することができます。会員専用認証パスワードは「jsdd(半角小文字)」です。各支部のHPアドレスは会報の最終ページ左隅に掲載してあります。紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。ファクスか郵送でお送りいたします。

### ご寄付ありがとうございました(敬称略)

2018年6月5日～18年8月20日に  
ご寄付いただいたの方々です。

石田まき江 3,000	小川秀夫 3,000	嶋内明彦 4,312	松本秀樹・清子 4,000
家原亮二 3,000	小野絹子 3,000	高橋郁子 10,000	湊 恵美子 10,000
飯塚範子 10,000	加藤哲夫 10,000	高田幸子 10,000	渡邊和子 1,000
池田孝一・ミドリ 2,000	片倉タツエ 3,000	土屋もと子 7,800	和田みのり 2,000
壺岐一成 10,000	木下定子 1,928	寺脇みさ子 9,000	匿名・東京都 5,000
岩崎稔子 10,000	坂本 力 5,000	西野 澄 50,000	匿名・東京都 8,280
浦田 久 3,000	坂本陽子 5,000	西村七海雄・郷子 10,000	匿名・愛知県 10,000
内山秀子 10,000	斎藤敏子 10,000	原 房子 4,330	【九州支部支部扱い】
海老原正・ヒロ子 4,000	佐村益一 20,000	東川美和子 1,668	白髭 豊 17,958
尾崎千代子 1,000	下村正昭・久良子 4,000	布川 毅 5,000	

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。切手でのご寄付もお受けしています。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

## ●本部

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501  
TEL 03-3818-6563  
FAX 03-3818-6562  
メール  
info@songenshi-kyokai.com  
ホームページ  
http://www.songenshi-kyokai.com/  
郵便振替口座  
東京00130-6-16468

## ●北海道支部

〒060-0807  
札幌市北区北7条西2丁目6  
37山京ビル801  
TEL 011-736-0290  
FAX 011-299-3186

## ●東北支部

〒980-0811  
仙台市青葉区一番町1-12-39  
旭開発第2ビル703号室  
TEL 022-217-0081  
FAX 022-217-0082

## ●関東甲信越支部

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501  
TEL 03-5689-2100  
FAX 03-5689-2141

## ●東海北陸支部

〒453-0832  
名古屋市中村区乾出町2-7  
正和ビル2階  
なかむら公園前法律事務所内  
TEL 052-481-6501  
FAX 052-486-7389

## ●関西支部

〒532-0003  
大阪市淀川区宮原4-1-46  
新大阪北ビル702号  
TEL 06-4866-6365  
FAX 06-4866-6375

## ●中国地方支部

〒730-0024  
広島市中区西平塚町2-10  
TEL 082-244-2039  
FAX 082-244-2048

## ●四国支部

〒790-0067  
松山市大手町1-8-16  
二宮ビル3F B  
TEL 089-993-6356  
FAX 089-993-6357

## ●九州支部

〒810-0001  
福岡市中央区天神1-16-1  
毎日福岡会館5階  
TEL&FAX 092-724-6008

※北陸支部は東海支部に統廃合されました

各支部HPへのアクセスは  
本部HPからのリンクをご利用ください。

# リビング・ウイル Living Will

(終末期医療における事前指示書)  
(平成29年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に  
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私  
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成  
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ  
り、既に死が迫っていると診断された場合に  
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延  
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるため  
には、麻薬などの適切な使用により十分な緩和  
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物  
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ  
てください。

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々  
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要  
望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあ  
ることを付記いたします。

## リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ  
りが近づいたら延命措置を望ま  
ないで、自然の摂理にゆだねて  
寿命を迎えるご自分の意思を表  
した「リビング・ウイル」を発  
行、その普及に努めています。

現在11万人の方々「リビン  
グ・ウイル」を持ち、安心した  
日々を送っています。自然のま  
ま寿命を迎えることは、最期  
の日々をよりよく生きること  
であり、今を健やかに生きること  
につながります。

お友だちやお知り合いに協会  
や「リビング・ウイル」のことを  
お伝えいただければと願ってい  
ます。

## 事務局から

# 会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から  
自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがあり  
ますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。  
次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ ご希望の会員
- 払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日  
祝日の場合は翌営業日に引き落とし)
- 払込額 ▶ 会費相当額
- 手数料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)の  
ご負担があります
- 取扱 金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、  
ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印  
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可  
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の  
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して  
あります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も  
記入して下さい。なお協会ではコンビニでの振り込みをお勧  
めしております



今号の1枚  
『稔り、ゆれる』

## Living Will 目次

— 会報2018年10月 No.171 —

- 02 インタビュー  
医師・作家 **大鐘稔彦**さん
  - 07 「私の希望表明書」の書面
  - 08 **ファシリテーター  
養成研修会の報告**
  - 10 第7回  
リビングウイル研究会開く
  - 11 キュブラーロスの集いに参加して
  - 12 **LW受容協力医師制度の展望**  
ルポ・鈴木悦朗医師の奮闘
  - 14 ●連載「四季の歌」  
**紅葉**
  - 16 ●LWのひろば
  - 18 ●支部活動・報告 2018 秋～冬
  - 24 LW受容協力医師のリスト／寄付
  - 25 メール配信登録のご案内
  - 26 事務局から／編集後記／目次
  - 27 終末期医療における事前指示書／  
本部支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員:10万9397人  
(2018年9月3日現在)

次号は、  
**2019年1月1日発行**

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。  
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

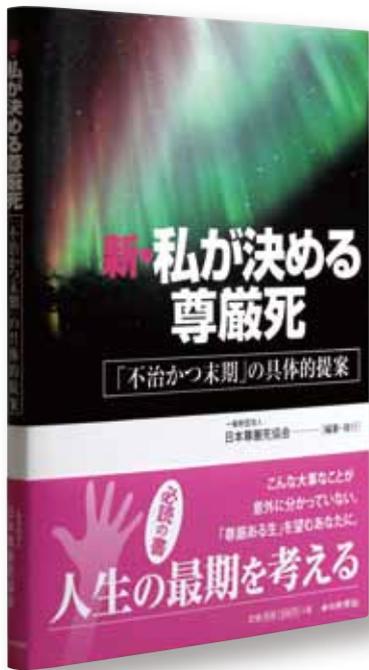
## 編集後記

●これまで案内とお知らせが主  
だった「支部活動」のページです  
が、今号から「活動報告」も併せ  
て掲載することにし、2ページ  
増やしました。講演やイベント  
がどんな内容だったか、会員獲  
得や協会の考えの啓蒙にどんな  
工夫をこらしているか、各支部  
の活動の実際をリアルにお伝え  
していきます。

ところで「巻頭インタビュー」  
の大鐘稔彦さんですが、人気医  
療小説『孤高のメス』(テレビド  
ラマにも)の主人公・当麻鉄彦と  
もども、アウトサイダーの魅力  
にあふれていました。がん告知  
の先駆けの一人で、エホバの証人  
への執刀も手がけた名外科医は  
今、メスを置き、淡路島で在宅医  
療などに軸足を移していました。  
「ルポ・受容協力医師」にご登場  
いただいた鈴木悦朗さんも、慶  
大近くの吉日で「赤ひげ」のよ  
うに在宅医療に日々奮闘してい  
ました。お二人の医師に共通し  
て強く感じたもの——それは「強  
い志」でした。(那司)

# 新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



## 人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- **がんの末期** 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す？
- **持続的植物状態** 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら？
- **腎不全** 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら？
- **救急医療** 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは？
- **認知症** 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は？
- **老衰** 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か？

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

# モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

## 医療用麻薬のモルヒネ 適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

- **激痛から解放された**  
「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。
- **誤解されているモルヒネ**  
モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。
- **がん以外の痛みにも効果**  
帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、パーキンソン病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。
- **専門医がアドバイス**  
執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に『痛みを取ってください』と言いましょ」と呼びかけています。



お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、会員の方は会員番号、購入希望本を明記、代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。